

市では、高齢者の交通事故防止のため
さまざまな講習会を行っています

高齢者交通安全教室

市内の町内会や老人クラブなど的高齢者の団体を対象にした、出前方式の交通安全教室です。講話やビデオ上映を通して、交通事故を防ぎ、長く安全に運転を続けるためのポイントを楽しく学ぶことができます。

西多賀市民センターで開催されている高齢者向けの



通年学習講座「西多賀寿大学」では、10月18日に(公財)仙台ひと・まち交流財団交通安全指導課を講師に招き、交通安全教室を実施しました。

■西多賀寿大学会長・鈴木進さんと、副会長・永浦純也さんのお話

今回教室に参加したお二人も、日々の運転の中で、年齢による身体の衰えを実感しているそうです。「以前に比べると、見えづらいと感じるこ



▲鈴木さん(左)と永浦さん(右)

とが多くなったため、夜間の運転は控えている」と話す鈴木さん。永浦さんも普段から安全運転を心掛けているということですが、「一瞬の油断が重大事故につながるとあらためて感じた。今後も事故を起こすことなく、安全な運転を続けていきたい」と決意を新たにしていました。

シルバードライバー講習会

高齢者特有の運転リスクやご自分の特性を把握してもらうことを目的とした講習会です。講習では、宮城県警察や市内の自動車学校の協力のもと、交通安全講話のほか、同乗した指導員による運転能力の診断などを実施。逆光の中での視力検査も行われており、夜間に対向車のライトなどでどれくらい見えなくなるのか体感することができます。



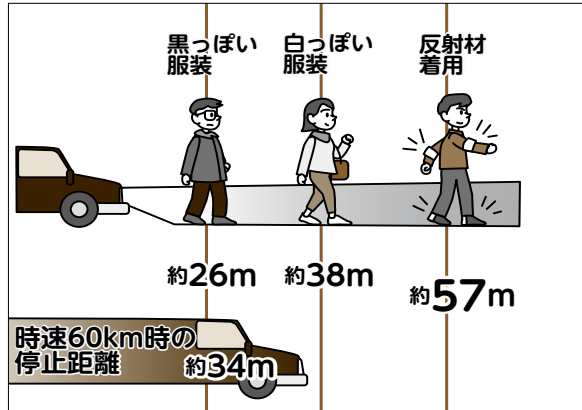
▶「タコつぼ」と呼ばれる、袋小路から切り返しをして脱出するコース

◀参加者からは、「日頃の運転を見直す良い機会になった」という声が聞かれました



この特集に関するお問い合わせは、自転車交通安全課
☎214・1075、FAX214・1091

夜間に車のヘッドライトで歩行者を確認できる距離(上)と、ブレーキを踏んでから自動車が停止するまでの距離(下)



夕暮れ時の事故に注意
12月は、夕暮れ時の暗さに目が慣れる前の事故や、朝晩の路面凍結によるスリップ事故などが増え、1年の中で交通事故が最も多く発生する時期です。
交通事故に巻き込まれないためには、夕暮れ時や夜間に出歩く際、安全確認のほかにも、明るい色の服の着用や、反射材の使用が効果的です。特に反射材は運転者からの視認性が大幅に上昇するため、自分の存在を早期に運転者に知らせることができます。
運転者も、歩行者等の早期発見

のため、早めにヘッドライト(前照灯)を点灯し、夜間の運転では、対向車や先行車がいない場合はハイビーム(上向き前照灯)を基本的に走行しましょう。
長く安全に運転を楽しむために
最近では、自動ブレーキなどの先進安全技術を備えた「サポカー」「サポカーS」と呼ばれる自動車も普及し始めています。年齢を重ねても長く安全に運転を続けていけるよう、豊富な運転経験を生かす、危険を予測する運転を行っていくとともに、こうした自動車の

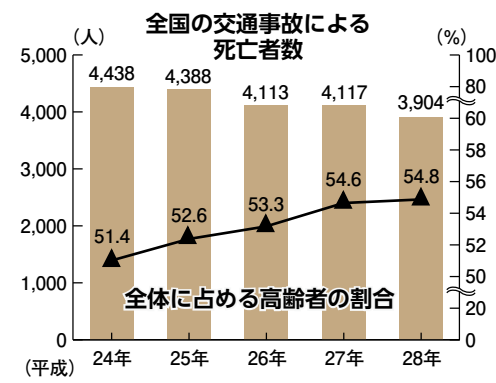
利用や補償運転を行うことが大切です。
運転が難しい、怖いと感じるようになった場合には、運転免許証の返納も一つの選択肢です。運転ができなくなるといふことには不安も伴いますが、安全を重視して自主的に運転免許証を返納する方が少しずつ増えています。
高齢者に限らず、見え方や聞こえ方は一人一人異なります。全ての人々が事故なく安全・安心な生活を送るために、お互いにこうした違いを理解し合い、思いやりと心の余裕を持った交通マナーを心掛けましょう。



高齢者の交通事故を防ぐために
安全・安心な社会を目指して

高齢者の人口が増加し、運転免許保有者の高齢化が進む中、高齢者が巻き込まれる交通事故が目立っています。「自分は大丈夫」と思わず、交通ルール・マナーを守り、安全運転の継続に努めましょう。

高齢者の交通事故割合が増加しています

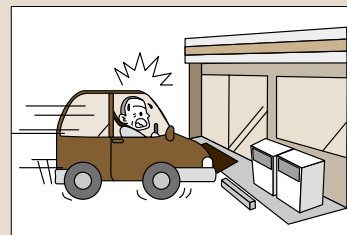


近年、交通事故件数や交通事故による死者数は、シートベルト着用率の向上や罰則の強化などにより、減少傾向にあります。しかしその一方で、全国の交通事故死者数に占める高齢者の割合は年々増加。平成28年は54・8パーセントと、過去最多となりました。
年齢を重ねると、視野が狭くなる、耳が遠くなるなどの身体の衰えを感じたり、運転中や歩行中の危険の察知が遅れたりすることも。また、疲労を感じやすくなり、注意力や集中力が散漫になることもあります。
自分の身体の変化を自覚し、スピードを抑える、小まめに休憩を取るなど、能力を補う運転方法(補償運転)を行う必要があります。

気を付けて！ 高齢者事故の主なケース

■焦り・うっかり事故

慌てて駐車場に車を止めようとしたところ、ブレーキとアクセルを踏み間違え、建物にぶつかってしまった。

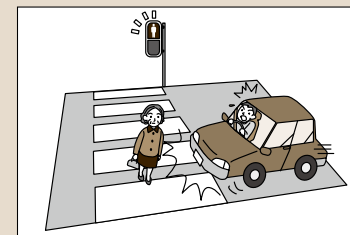


防ぐには？

焦りは多くのミスの原因となります。時間にゆとりを持って運転しましょう。ほかにも、信号機や一時停止の標識を「うっかり」見落としたことによる事故も多いので、安全確認の徹底が大切です。

■「たぶん大丈夫だろう」

いつも車通りの少ない道だからという油断から、信号を無視して横断歩道を渡っていたところ、やってきた車にひかれてしまった。



防ぐには？

いつもの道でも、「たぶん車も人もいないだろう」と思い込まず、他の車や人がいるかもしれないと考え、必ず自分の目で安全確認をしましょう。「たぶん相手が止まってくれるだろう」も禁物です。

■体調不良

朝から体調が良くないと感じつつ運転を行っていたところ、急にめまいが起り、ガードレールに追突してしまいました。



防ぐには？

体調不良による事故は重大事故につながりやすく危険です。少しでも体調が悪いと感じたら運転を控え、運転中の場合は車を安全な場所へ止め様子を見る、運転を中止するなどの措置を取りましょう。